

※ このアンケートは、前のページに戻るできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

(ウイルス肝炎に関して解説した以下の文章をお読みいただき、解説に続く質問にお答えください。)

**【B型肝炎・C型肝炎とはどのような病気か】**

B型肝炎、C型肝炎はともにウイルスが肝臓に感染して引き起こす病気です。感染が短期間で終わる場合(急性肝炎)と長期にわたる場合(慢性肝炎)、また、感染していても症状・検査値異常を伴わない場合(無症候性キャリア)があります。キャリアを含めると患者・感染者は日本全国に300万人以上いると推計されます。

慢性肝炎は症状に乏しい病気ですが、肝炎が続くと肝臓の機能が大きく損なわれ、肝硬変と呼ばれる状態になります。肝硬変あるいは肝硬変に近い状態になると体のだるさ、食欲低下、黄疸(皮膚や白目に黄色い色素が沈着する状態)が出現します。肝臓がんを合併することもあります。慢性肝炎の治療は近年大きく進歩し、C型肝炎の患者さんの半数以上が完全に治るようになりました。B型肝炎の患者さんはウイルスを消すことは難しいのですが、薬の服用によりウイルス量を大きく減らし、病気を完全に抑え込むことができるようになってきています。

B型肝炎、C型肝炎はウイルスが血液の中に入ることによって感染が成立します。過去の輸血や注射・予防接種\*の他、入れ墨、汚染された器具を使ったピアスの穴あけや脱毛も問題になることが知られています。

\*注:輸血前の検査技術の進歩、ディスポーザブル注射機器の普及により、現在では輸血や注射・予防接種による新たな感染はほとんど認められていません。

感染している人の体内にあるウイルスが他の人に感染することが日常生活で起こるでしょうか。感染している人が出血した場合が問題になりますが、皆さんの体に傷がなければウイルスが皆さんの血液の中に侵入することはありません。従って身体の表面にある傷をきちんと覆っておけば感染は起こりません。

B型肝炎・キャリアの主な感染経路は、約30年前に開始された母子感染防止事業より前の母子感染と乳幼児期の感染と言われています。性交渉を通じて感染することがありますが、B型肝炎の予防接種(ワクチン)を受ければ感染を予防することが可能です。パートナーがB型肝炎に感染している場合や、職業上血液に触れる機会が多い人は予防接種を受けることが勧められます。

B型肝炎、C型肝炎の患者さんはいわれのない偏見や差別を受けることが時にありますが、あってはならないことです。差別の原因の多くは以上述べたことを一般の人がよく理解していないことにあります。

**III\_5**

あなたがウイルス肝炎について50分授業をするとすればどのように進めますか。以下の事例を参考に計画を立ててみてください。  
※授業内容は(1)～(5)間で用意していますが、全てを理める必要はありません。

(回答は具体的に/回答は半角数字で入力)

**【例】**

1. ウイルス肝炎についてのDVDを見て、どのような病気なのかを生徒に理解させる(15分)
2. ウイルス肝炎以外にどのような感染症を知っているか、どのような病気なのか事例を挙げさせる(10分)
3. ウイルス肝炎の感染経路、感染を防ぐために注意すべきことを説明する(5分)
4. ウイルス肝炎の患者に対する差別がなぜ生じるのかを考え、対策を話し合う(20分)

|     | 授業内容 | 所要時間 |
|-----|------|------|
| (1) |      | 分    |
| (2) |      | 分    |
| (3) |      | 分    |
| (4) |      | 分    |
| (5) |      | 分    |
| 合計  |      | 分    |

次のページ

(ここからはあなたご自身についてうかがいます。)

**IV\_1** あなたの年齢

(回答は半角数字で入力)

\_\_\_\_ 才

**IV\_2** あなたの性別

(回答は1つ)

- 男性
- 女性

**IV\_3** あなたの最終学歴

(回答は1つ)

- 大学院(博士・修士)
- 大学など
- その他 具体的に: \_\_\_\_\_

次のページ

**IV\_4** 勤務年数

(回答は半角数字で入力)

※常勤・非常勤は問いません。  
 ※勤務経験がない場合は0とお答えください。

|                       | 年      | か月      |
|-----------------------|--------|---------|
| (1)高等学校               | ____ 年 | ____ か月 |
| (2)中学校                | ____ 年 | ____ か月 |
| (3)小学校                | ____ 年 | ____ か月 |
| (4)その他の学校<br>※下記で具体的に | ____ 年 | ____ か月 |
| (5)通算合計               | ____ 年 | ____ か月 |

|           | 年      | か月      |
|-----------|--------|---------|
| (6)現在の勤務校 | ____ 年 | ____ か月 |

※ (4)その他の学校で勤務経験が「1か月以上ある」とお答えの方は、学校の種類を具体的にお答えください。

次のページ

**IV\_5 所持教員免許**

(回答はいくつでも)  
 ※校長先生などで、教員免許をお持ちでない方は、その他を選んで「教員免許はない」とお書きください。

- 小学校教員免許
- 中学校教員免許
- 高等学校教員免許
- 養護教員免許
- 栄養教員免許
- その他 具体的に:

次のページ

**IV\_5\_1 現在担当教科**

(回答はいくつでも)  
 ※現在担当教科がない方は、その他を選んで「ない」とお書きください。

**中学校**

- 国語
- 社会
- 数学
- 理科
- 音楽
- 美術
- 保健体育
- 技術
- 家庭
- 外国語
- その他 具体的に:

**高等学校**

- 国語(国語、現代文、古典)
- 地理歴史(世界史、日本史、地理)
- 公民(現代社会、倫理、政治・経済)
- 数学
- 理科(物理、化学、生物、地学など)
- 保健体育
- 芸術(音楽、美術、工芸、書道)
- 外国語
- 家庭
- 情報
- 農業
- 工業
- 商業
- 水産
- 看護
- 福祉
- その他 具体的に:

次のページ

**IV\_5\_2 担当経験科目と経験年数**

(回答は具体的に/回答は半角数字で入力)  
 ※中学校や高校で担当した科目についてお書きください。  
 ※現在の担当科目がない方は、(4)現在の担当科目に「ない」とお書きください。

|           |                |                 |
|-----------|----------------|-----------------|
| 勤務年数 通算合計 | \$q28[5] + 0 年 | \$q29[5] + 0 か月 |
|-----------|----------------|-----------------|

|            | 科目                                       | 年  | か月  |
|------------|--|--|---|
| (1)        | <input style="width: 90%;" type="text"/> | <input style="width: 50%;" type="text"/> 年 | <input style="width: 50%;" type="text"/> か月 |
| (2)        | <input style="width: 90%;" type="text"/> | <input style="width: 50%;" type="text"/> 年 | <input style="width: 50%;" type="text"/> か月 |
| (3)        | <input style="width: 90%;" type="text"/> | <input style="width: 50%;" type="text"/> 年 | <input style="width: 50%;" type="text"/> か月 |
| (4)現在の担当科目 | <input style="width: 90%;" type="text"/> |  |   |

次のページ

あなたが現在主に勤めている%Xq1%についてうかがいます。

IV\_6 設立母体

(回答は1つ)

- 国立
- 公立
- 私立

IV\_7 学校種類(男女別)

(回答は1つ)

- 男女共学
- 男子校
- 女子校

IV\_8 学校種類(教育課程)

(回答は1つ)

- 全日制
- 定時制
- 通信制
- その他 具体的に:

次のページ

IV\_9 学校所在地(都道府県)

(回答は1つ)

北海道地方

- 北海道

東北地方

- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 秋田県
- 山形県
- 福島県

関東地方

- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県

中部地方

- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県

近畿地方

- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県

中国地方

- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県

四国地方

- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県

九州地方

- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 熊本県
- 大分県
- 宮崎県
- 鹿児島県

沖縄地方

- 沖縄県

次のページ



## 【資料 13】 患者ヒアリング・偏見差別聴取事例

偏見や差別経験事例

\*ヒアリングの対象者が、偏見や差別と受け止め、あるいは感じた事例

**1 女性 30代 パート B型**

- ・手袋を2重にしている、心なしかB型だから警戒しているなど、そして少し嫌な顔をされたので、歯医者に来てはいけなかったかなと思った。
- ・生命保険の加入を2、3断られた。最初を書く既往症のところを駄目と言われた。
- ・18歳の頃に医療系の専門学校に入ったが、そこで最初に血液検査があって、私1人だけ全員の前で「Mさんだけ後日再検査」と言われた。
- ・専門学校で、みんなに「自分はB型だよ」と言うのもなんだし、「B型ではなくてエイズ系じゃないの?」と言っていた人もいたらしくて、それは友達の友達から聞いたので事実でない話が広まっていた。友達が分かってくれていれば、クラスの人が何か言っていないかと聞き直してはいたが、すごくショックだった。

**2 女性 50代 パート C型**

- ・産婦人科の癌検診に行った時に、書く欄があって書いたのか、何か言ったのか、「ちょっと待って下さい」と言われて、検診をしてもらった後に、「肝炎の方なので」ということで普通の料金よりも千円余計に取られた。医師会かどこかに電話したが、「それはお医者さんの裁量による」と言われた。
- ・保険会社は何が駄目で、というのは教えてはくれないが、当てはまるのはそれしかない。もういいかなと思って入ろうとすると、「残念ながら」と返ってくる。

**3 男性 30代 会社員 B型**

- ・入れたけれど、最近保険も色々出て来ているが、先進医療の保険はちょっと難しい、と断られた。
- ・昔はそれほど気にせずB型肝炎と言っていたけれど、最近、いいことではあるが浸透してきていて、多分エイズと同じくくのイメージがあるので、周りにはあまり伝えないようになった。
- ・もし血が付いていたりすると触れない。誰の血か分からなければ、エイズかもしれないし、B型肝炎かもしれないし、C型肝炎かもしれないし、血液で感染って言ったらそれぐらいしかない。そういうふうにする人もいる。

**4 女性 60代 主婦 C型**

- ・歯科医のことがすごくショックだった。半年に1回やる定期健診に行き、問診で罹っている病気のところにC型肝炎があって、異常はないが通院しているし陽性だと分かっているから○印をした。問診を書いた後、呼ばれて行ったらそこには診察台が4台あって仕切りがないところだった。治療ではなく検査だったので、いつもならば奥の方で衛生士が診てくれていたが、入ってみたらいきなりブルーシートのようなものが周り全部に被せるようにして敷いてあった。コップのところもシートに覆われていて、その上からコップを掴まないといけない状況だった。

説明があれば良かったのだが、何も言われずに呼ばれて行ったらその状況だった。衛生士も透明のガスマスクみたいなものを被っていた。唾が飛ぶからということだが、はっきりとは

言われなかった。終わってから衛生士に「ちょっと説明があると良かったのに」とひと言言った。衛生士は何も言わなかったのだが、仕切りがないから歯科医にも聞こえたみたいで、会計も終わった後に「歯科医が呼んでいます」と呼ばれていってみると、他の患者は帰った後でいなかったが、ただ説明をして欲しかったと衛生士に言っただけなのに、歯科医からプライドを傷付けたのか、高い声で「今まででクレームを言ったのは、あなたとあと1人くらいですよ」と言われた。「クレームではない」と言っても黙っていて、怒っているように見えた。その時に歯科医も「そうですね、説明すれば良かったですね」と言ってくればそこで終わったものを、どうしてこんな態度をとるのか腹が立った。それ以来、治療の時には青いシートをかけていた。

- ・変えたかったし気分も悪かったが、他の歯科医に行ってもまたC型肝炎のことを聞いて、同じようなことを歯科医に思われたらどうしようかと思った。6ヶ月後に定期健診のハガキが来なかったので、これは怒って診療してくれないのだと思った。
- ・県の相談窓口があると聞いて、新聞に載っていた県庁の電話番号へかけてみた。そこで、ここは相談を受け付けるが、歯科医のことならば県の医師会に相談してくれと言われてそこへかけた。医師会では、県の歯科医の委員の取り締まるような会があるので、そこに電話をして相談してみてくれと言われて。教えてくれるのだからと思ってそこへ電話して、受診拒否にも見えるがそれも分からないし、あまり良い気分もしなかったので、どうしたらよいかと思ってかけたと言ったら、患者からの声ということで、自分の方からその歯科医へ電話をかけてよいか、あなたがかけるより自分がかけた方がよいかからと言われたので、お願いした。それからしばらくして、6ヶ月健診の知らせもないし、行くかどうか迷っていた頃だったか忘れたが、いつもの歯科医から電話があった。指導が入ったのか、話があるということだったので出向いた。自分1人だと思えるように言えないから、夫にもついて来てもらった。医師と話をしたがそのことには触れなかった。最後に帰る間に、診療を拒否するつもりはなかった、診療拒否ではなくて感染予防の為にやったことだと言われた。歯科医も感染予防は悪いことではないから、それ以上のことはその歯科医には言わなかった、反省ではないけれどいいかと思って、またそこで健診をお願いすることにした。
- ・歯科医によりけりで、ほとんどの歯科医はそういうことはないと言われた。肝臓の医師も、それは認識不足でそんなに詳しく分からないから、ただうつるからそうしたのだろう、自分だったらもう他の歯科医へ行くのに、どうしてまたその歯科医にかかるのかと言っていた。
- ・その歯科医は「言葉が過ぎました、診療拒否ではない」と言っていたし、その後は普通にやってくれたが、肝炎の治療が終わるまでは青いシートはしていた。そういう歯科医だから、肝臓の医師に診断書を書いてもらって歯科医に封書で糊付けして渡した。その次に行った時、受付で「まだ医師は忙しくて診断書は見えていない」と言っていたが、青いシートは取れていた。歯科医は、以前もB型肝炎の人がいて、唾が飛ぶからその時にも同様にやりましたと言っていた。私は歯を抜いたわけでも出血したわけでもないのに、看護婦も段々防御をするようになったが、今は普通になった。
- ・仕切りがないし次々呼ばれていくので、他の人に分かってしまうから配慮して欲しいし、その意味でも説明をして欲しかった。

## 5 女性 60代 農林水産業 B型

- ・兄がB型肝炎に罹っていたことがわかっていたのに、医師が言ってくれなかった。もし、もっと早く言って貰えれば、私ももっと早くにわかったかもしれない。私の抗体は、いつ出来たかがわからない。私が誰かにうつしているかもしれない。

## 6 男性 50代 会社員 B型

- ・私はB型肝炎だと正面切って言っていて、地域の集まりなどでも不都合なことがあったり、言っ嫌な思いをしたことや、差別経験のようなことは特にはない。
- ・鈍感なのかもしれないが、あまり感じたことはない。歯医者では、B型肝炎と書くが、普通に治療してもらう。

B型肝炎だけではなくてC型肝炎を持っている人も世の中にはたくさんいるし、自分が肝炎に罹っていることを知らない人もたくさんいる。病院でそのような偏見があるのは、おかしい。たまたま、私はそのような経験はない。

- ・皮膚科に行ったときに医師が一瞬嫌な顔をした。それは肝炎だからなのか、ゼフィックスを飲んでいることなのか、肝炎だからかもしれない。そのまま通院して薬をもらっていた。あまり気にしても、わざわざそのようなことで病院を変えても仕方がないと思う。今は気にせず通っていて、それ以降はそんな思いはしていない。その先生は、まずは肝炎の治療からしなさいというような言い方をした。肝炎は治療していて、今はもう安定していると言った。皮膚科の先生は肝炎のことは多分知らないと思う。

## 7 女性 60代 専業主婦 C型

- ・私が肝炎に罹患していることが分かった病院は、内科の私立病院。そのときは、別の病気で入院していて4人部屋だったが、C型肝炎であることが分かったらその部屋に先生と婦長さんが来て、同室の人がいるところで、「C型肝炎だから1人部屋に移ってもらう」と言われた。個室に移ったら普通の看護師さんは回ってこないで、婦長さんが戸を開けて「どう?」っていう感じの対応で、余計怖くなった。
- ・肝炎が分かったいちばん最初の病院に2年くらい経ってから行ったけれど、看護師さんが血液を採取するときから、ひいていた。プロが恐れるほどなのかと思った。
- ・C型肝炎に罹患していることが分かったとき、その病院の医師から「10年単位で悪くなって、30年後には確実に肝癌で死亡します」、「C型肝炎は治りません」と言われた。この医師は肝炎の専門医ではない。そのとき、そこまで言わなくてもいいのではないかと、もう、私の頭がバーンとなって、もう駄目なんだ、退院しても、主人の食事を作って病気がうつたらどうしよう、子供にうつたらどうしようと、病院の屋上から身を投げてしまおうかと思った。
- ・保険は、これから治療費にすごくかかるので入れるかな、どうしようかなと思っていたけれど、やはり病気があると駄目だった。

## 8 男性 50代 公務員(教育) B型

- ・胃カメラを飲むとき肝炎患者は後に回されると聞いたことがあるので、それは嫌だなと思って、胃カメラはやっていない。人間ドッグのときはバリウムでやっている。
- ・海外旅行のときに普通の海外旅行保険に入ろうと思ったが、肝炎で薬を飲んでいると入れなかった。保険はその後変わったかもしれないが、そのときは入れなかったので、それ以降、いつも保険は入らずに出掛けている。
- ・職場にもいろんな保険の勧誘に来るが、保険に入る前に診断書のようなものを書いて、それを見せるともう駄目。それは当然のことで、いつ癌になるか分からない人は保険には入れないと思う。子供を育てるときの学資保険に入れなかったのも、妻の名義で入った。



## 9 男性 40代 会社員 B型

- ・ 6、7年前に医師から、「薬を継続して飲んでいるので、子供はつくらない方がいいですよ」と言われた。そのとき、産まれた子供にワクチンを定期的にやれば、感染を防ぐことができるというような説明はなかった。医師から、「子供をつくっては駄目だ」とは言われていない。そのころ、子供もなかなかできなかつたので諦め気味だった。子供がくれなくなつたということで、嘆き悲しんだということはない。

## 10 女性 40代 専業主婦 C型

- ・ 確か妊娠か何かの検査で、多少時間がかかるのは仕方がないが、自分が後回しになり、後から来た人が先になって、「あなたは、それだから最後にしました」と言われたときは、しょうがないかなと思いつつ、「えー、やっぱり後から来た人を先にさせるの?」という気持ちがあった。受付か看護師のどちらかで、医者には言われてない。3、4回あつたので、「またか」という思いが残っている。
- ・ 歯医者に行つて、「病気がありますか」と聞かれたとき、C型肝炎と書くと、最後に回された。血が出るから。事前にC型肝炎と告知したと思う。何度か書いていると、書くと後回しにされるということもあつて、悪いけど書かなかつたというときもある。やはり後回しにされるのが嫌でということ。その時は、別に血液感染以外はうつらないんだから、順番を後回しにされる必要が無いんじゃないかと思つた。後回しにするということを知つた人は、受付。しょうがないのかなという病気で、何か言うということはなく、そのまま受け入れた。
- ・ 求人保険会社に入るにあたり、筆記試験では受かつたけれど、健康診断を受けて、自分の体についてアレルギーがあるかとか告知するときに、別にC型肝炎と書いてもいいけどと思つて書いたら、筆記試験では受かつたけれど、あなたの場合は健康状態でこれがあるので、落とされた。別の会社に入る際、「あなた、健康の告知にC型肝炎と書きちゃつたの?」、「それでちょっと引かかると思うのよね」と言われ、「C型肝炎と告知しないでね」と言われた。
- ・ 他の疾患を書いてもだめだつたかは、分からない。面接の時に、知り合いの誘つた人が落とされておられ、精神面だとやはり人と接するので、だめだと言うことは聞いたけれど、ぜんそくの方で入っている人はいた。就職試験を受けるとき、こういう病気の方はお断りしますと言う説明は事前にはない。
- ・ 無保険者。都民共済にも電話で聞いたときに、「やはりだめです」と言われた。最初、若いときにはお金がなくて保険に入れなくて、入りたと思つたときにはもう肝炎になっていた。子どもも産まれて離婚もしたので、その時困つて、自分が勤めた保険会社や共済に電話したら、だめだと言われた。理由も同じ。共済は、ひとつでも引かかるとだめ。あと、お祝い保険にも入りたくて、「3年ごとに3万円あります」みたいなものも、ネットで資料を取り寄せて、電話で問い合わせたら「だめです」と言われた。
- ・ 保険に入っていないと不安なので、外資系の保険会社の「持病があつても入れます」というものの資料を取り寄せて見ているけど、やはり保険料が高い。5年経つたら告知義務がないということだが、私たちに勧めたとき、5年以上前のことまで書いてくださいと言つていた。がんと一緒ということだが、ウイルスはインターフェロンをやつたら完治だと思つたので、普通に入れると思つていた。5年たつたら入れるということは全然知らなかつた。

## 11 男性 40代 労務 B型

- ・ 胃腸科で、胃カメラを飲んだとき、まさか胃カメラで対策していないわけではないと思つたから言わなかつた。言い出す機会がなくて、終わった後に、「僕B型肝炎なんですけど、言わなくて大丈夫だつたですか?」と言つたら、その医者がすごく怒つて、「何で言わないんだ」、

「周りの人のことを考えないのか」と。自分がB型肝炎って知らないでやっている人もいるんだから、必ず消毒とかをしてるわけだし、そんなに怒らなくてもいいんじゃないかなと思って、ちょっとびっくりし、差別だとちょっと思った。

- ・胃カメラを飲んで嫌な経験をしたというのは、検査をして点滴か何かを打つことになって、ようやく刺して血管に当たったと思ったら、根本が外れて、血が飛んで、近くにいた最初に問診した女医かインターンか、「あ、その人、B!」と言われた。
- ・上司の人は、それで俺に触らないとかでもなくて、よくちょっかいを出してきたので。一緒にどこかに泊まったり、温泉旅行に行ったり、家にも泊めてもらったし、向こうはただネタとして言っていた感じかな。「あえて広めて薄めてやろう」とか、そんな深い意味ではなくて、ただ、一時期本当に面白がって言っていただけだと思う。別に止めろと言ったわけではないけど、10数年いたのでそのうち言わなくなった。
- ・部長が厳しい人で、病気のことを言ったら、何か妙な感じで変わった感じがした。それは、俺の被害妄想かもしれないけど、パワハラだったと思う。肝臓のことは関係ないかもしれないけど、肝臓のことを言ったときに、そこも健康診断とか言ってから入ったわけではなくて、入ってから言ったので、その時にえらい驚かれ、「すごだるくて仕事続くの?」と言われたから、「治りつつあるような方向で、数値も悪くないので」と言って。その後健康診断で、別にその人のせいにしたくないけれど、そこに入ってから急に胃潰瘍になっちゃって、そこは結局1年半で辞めた。でもその人もいつも健康診断で引っかかって、一緒に再検査をして、肝臓の数値とかも見に来る人で。それが心配しているとも取れるし、確認しているとも取れるし、最終的には名ばかり管理職みたいな感じで、社員が3人しかいないけど役職があるという感じで、パートさん10人くらいに一人一人面談をしようとか言って、こいつの悪いところを言ってくれと。パートさんともそんなに仲は悪くなかったし、言いづらいんだけど、無理矢理「Xさんはこういうところが悪いと思います」とか、10人くらいに続けて言われて、何かちょっと落ち込んでしまった。母に言わせると、あの頃は鬱っぽかったと。子どもが生まれるので、産まれたらもう辞められないよな、と思って。
- ・B型肝炎はかなり沢山いると思うけど、向こうから「俺はB型肝炎だ」なんて言われたことは今まで1回も無い。
- ・都民共済で申請して「B型肝炎だけれど大丈夫ですか?」と言ったら、「それはちょっと難しいと思います」と言われた。他の生命保険に入っていない。20代の頃、難しいと言われた。職場によく外交員の方が来られているが、自分のところには来なくなった。他の同僚にはかなりしつこくて、差別だとちょっと思う。
- ・「●●はB型だから、側にいたらうつるよ」ということを中学の時言われてた、ということの後から友達に聞いた。卒業してたかどうかは覚えていない。自分は陰口と取ったけど、言っていた本人はどうだったか分からない。教えて欲しくなかったけど。知らなければ知らないままで、そのまま別に高校に入ってから会わなかった。裏で言われるのは傷つく。
- ・中学の時の陰口は差別と思う。差別じゃないけど、中学か高校の時かな、体育でマラソンとかをやったりサボる人がいて、そういう人がいると、先生に「●●はB型肝炎なのに、あんなにがんばって走っているんだぞ」と言われたと、友達に言われて、「ちょっと待てよ」と。俺はその人には言っていないけど、「あなたB型肝炎なの?」って言われて。体育の先生は、俺を引き合いに出して褒めているつもりなのかもしれないけど、びっくりした。小学5年生の時に、1週間入院してたので、その時わざわざ先生がB型肝炎で入院したと言った。ただ、その頃は小学校で分からないのでそれなりだったが、「うつるの?」って友達2人くらいには、言われた。
- ・それを言って振られたことがある。職場で知り合って、このくらいになってきて、いいのかなと思って言ったら、「信じられない」と言われて。それは付き合って3ヶ月くらいかな。

今まで何で黙っていたのと。その頃はもう性交渉をしていたので気持ちも分かる。「そういうことで、安心なんだけど」とは言ったけれど、「あんた医者じゃないでしょ」と、「訴えてやる」とか言われた。それは、その場の時で、一緒に職場にいたけど、その後は辞めちゃったので。まだ携帯も無いところで、電話番号に電話をかけても出てくれないし。出たと思っても、「もういいから」みたいな感じ、「忘れたいので」みたいな感じで言われた。同じバイト仲間から後から聞いたら、「すごいいい人ぶってて、実はひどい人だった」と散々怒っていたと後から聞いた。まあ自分が悪いけれど、その時は、やっぱり辛かった。どういう病気が分からないで、言われているところもあるんだろうけれど、自分は病気なので、自分で弁護しても説得力が無い。関係無い人が言ってくれば、向こうもそうなのかなと思ったかもしれないけど。ただいつもその後、付き合いした人は何人かしかいないけど、先に「B型肝炎で性交渉でうつる」と言っちゃうと、「私とやりたいの？」という風に、先回りして思われてしまうかも、と思った。「それ前提で私と付き合うの」みたいな。まだ付き合う前なのにそれは言えない。付き合いながらも、その段階に進むのって微妙だし、まだ付き合いがあるかどうか分からないような状況があるし。その話をするという事は、もうそういう段階に行くということだから、どうしても直前か後になってしまうことがある。若い頃だったので、やりたいやりたいというところもあって、直前でそれを言って、また逃げられたらどうしようみたいな。自分は多少自惚れているところがあって、優しくて気配りをするから、もてないけどそれなりに病気のことを補って余りあるものが何かあるかなど。そういうところを見せて、結構俺のことは見せて、大丈夫かなと思った後に言ったけど、そうでもなくて、今の妻は大丈夫だったということで。妻は最初から友達で、そのことを知っていて付き合いだったので、割とスムーズだった。

- ・今の妻と付き合う前の女の子は、趣味で大学の二部に一時期行っていたことがあって、そこで知り合った女の子は、そういう勉強もしていたみたいで、その子はこっちから言わなくても、「ゴムを着ければ大丈夫なんでしょう」と。詳しく知っていたのはその子くらいで、あとはそれまで一緒にいて、話したことがある幼なじみとか親友とかも、実際のところどのくらい知っているかは、自分が説明しただけで、どういうものかあまり良く知らないと思う。
- ・結婚するときに友達に大学の頃は、「俺はB型肝炎だから結婚しない」と言っていたと言われた。酔っぱらったときに。感染させたくないという気持ちと拒絶されるのが怖いというのもある。それなりに好きになった人に、それで振られちゃうというのが中々辛い。
- ・肝炎であることを言って振られた経験は、差別とまでは思わない。差別という言葉が、自分の中では結構重いのでそこまでは思わないというか、単に理解不足なのかなど。差別と言えば差別なのかもしれないけど、客観的に見たら自分の友人がそういう風にされていたら差別だと思えるけれど、自分のことだと差別と言いつらいところがある。異性関係に対してはそうかもしれない。

## 1 2 男性 60代 会社員 C型

- ・つい最近、無料でタバコの禁煙法の治験があるというので申し込んだが、既往症でC型肝炎があるというだけで断られた。差別と思わないが、「やはり治験にならないんだな」と思った。他ではない。
- ・内定の取消しが1番のショックだった。最大手に再就職で、しかも正社員で入れる、というのが驚きでもあり、2次試験、3次試験があって、現場での試験もあり、それでほぼ内定が決まり、「後は健康診断受けて終わりですから」というところまで行っただけで取消しなので、1週間、1ヶ月はガクツといていた。それからゆっくり考えて、「何で取り消されるんだ」「そういう病気なのか?」「私が働くことで会社内にみんなに感染する、簡単に言えばインフルエンザのように感染するような病気なのか」という感覚になった。

- ・内定取消しの電話の説明というのは、C型肝炎の言葉は出さないで、「慢性肝炎にかかっているのに内定は取り消させていただきます」ということだった。「今まで頑張って来たのに、OKとまで言われていたのに、何でそういった病気だけで取り消されるのか」とこちらも責めた。慢性肝炎と言われた時に、女房と話して、それはC型肝炎の事ではないかというので、それから初めて病院に行き、もう1度自ら血液検査をしてもらって、1Bの高ウイルス、確かにウイルスは多いと言われた。
- ・今でも、電話で内定の取消しを受けたことは差別であると思っている。定年までに近い年だが、大手で正社員で、というので、自分のその次の段階の自分の仕事のやり方まで考えて来ていたので。
- ・もう何年か前だが、内定を取り消された後だが、正直に既往症を書いたら保険加入を断られたが、差別だと思っていない。爆弾抱えている人間が保険に入るのは無理だろうな、と思う。若い頃から入っている保険には入っている。

### 13 男性 40代 元社員 B型

- ・6年前に病院で胃カメラの検査をしたとき、問診の後で医師から「カメラをやる前に血液検査をさせていただきます」と言われた。B型肝炎だと分かっていた時だったので、「B型肝炎があります」と言ったところ「分かりました。それも含めての検査です」と言われ、検査が終わって実際に胃カメラをやる時に医師の横に置いてあるカルテを見ると、カルテの上の方に付箋紙で「感染」の「感」に○がしてあった。それを見て「あーこれはそういう意味なのかな」「(看護師でも誰でも分かるように) 見えるところに書いておくのだ」「そういうふうに扱うのか」と思った。そこで試しに医師に「胃カメラでB型肝炎がうつることがあるのか」聞いたところ、「ないです」と言われた。うつることがないのに、そこまでする必要あるのかと思った。胃カメラは20何年前にも1度やっているが、その時は血液検査など一切なく、問診だけだったから、なんで血液検査をすることになったのかと思った。
- ・医療関係者に注意を促すということは分かる。しかし、少なくとも患者自身からは見えないところにしてほしい。
- ・20年くらい同じ歯科医に通っているが、3、4年前に行ったときに、「アンケートを書いてください」と言われ、「過去に罹っている、あるいは、今罹っている病気は何ですか」の横に「A型、B型、C型」と書いてあった。そこで正直にB型と書いたら、気のせいかも知れないが、担当の先生の扱い方が少し変わったように感じた。何か言われたとか、診療を断られたとか、順番が変わったというのではないが、治療が終わった後、やけに丁寧にイスやテーブルの周りの機器を拭いている気がした。今まであんな風に丁寧に拭いていたのかなと思った。丁寧に拭くことは必要かもしれないが、患者の前ではやらないでほしい。
- ・以前勤めていた会社には常駐の産業医がいて、健康診断の時にいろいろ話していた際に自分が●●県出身だと言ったところ、「あー、●●はB型が多いものね」と言われた。その医師は自分がB型であることを知らない人だったが、会社は●●県にも工場があり、その医師は●●の工場でも健診をやっているのだから、実際に社員の中にB型肝炎患者の割合が多いのだろうと思うけれども、医師がそういう言い方をしたので、「●●はB型肝炎が多い」という認識なのかと思った。
- ・2007年10月に子供の手当てについての●●の講習会に参加した。受講したのは30人くらいで、何か資格を取るための講習でなく、参加者は幼稚園の先生になりたいとか養護教諭になりたいという人、勤め先の業種によって●●の講習を受けることが半ば義務化されている人などがいた。その時に講師の指導員が、「顔や口の中に傷があって出血しているような場合、直接口と口との人工呼吸をするとエイズや肝炎がうつることがある、エイズよりも肝炎が怖い」という話をした。確かに血液を介して感染するおそれはあるが、受講した人は

多分「口と口との人工呼吸だとうつる」「エイズよりも肝炎が怖いのだ」という意識が植え付けられたのではないか。自分も大人向けの講習を指導する資格があつて、講習を担当している。その話をした指導員もよく知っている。実際に人口呼吸でうつったという話は聞いたことがない。なぜこういうことを言うのかと思った。1件でもそういう例があるのならいいが、全く根拠がない。自分は「何でこういうことを言うのか。例があるのか」●●の本社に問い合わせたが、「講習を担当した●●県の支部に問い合わせたが、そう言ったことは確認できなかった」という回答だった。その後●●県の支部から、「指導した本人が口が滑って言ってしまった」「これからはそういうことを言わないように、何らかの機会を設けて、肝炎やそういうものを含めてどういう経緯で病気になったのかを全指導員に伝えるようにする」と回答があつたが、その後、その担当者は別の部署に異動したようで、今日までそうした話は一切聞いてない。その講習会を受けていた指導員の中には、「インパクトのある言葉を聞いた。これは使えるぞ」ということで、今でもそういうことを言っている人がいるのではないかと思う。傷があるなしの点はおそらく消えてしまい、人工呼吸を口と口でやるとエイズや肝炎がうつると思っているのではないか。

- ・自分も●●のボランティアをやっているのではなかなか言いづらいが、はっきり言って●●は肝炎やエイズの加害者だと思う。自分も16歳の時から●●県で献血をしており、その時にこういう病気（B型肝炎など）があると教えてもらっていたら、もっと違つただろうと思つている。20歳のころに●●県で献血をした際は教えてもらったが、●●では教えてもらつてない。なぜ地域によって差があるのか。検査目的で献血に来られるのを防ぐためだとは思ふが、ほとんどの人は善意で献血をしているのに、そこで病気が分かつた時になぜ本人に通知をしてくれないのかと思う。年に数件でも不幸にして輸血でHIVや肝炎に感染する方がいるのに、そういう話は全然しないで、なぜ口と口との人工呼吸でうつると言うのか、事例がないのにでたらめな情報を流すことが一番腹立たしい。
- ・講習を受けた方の中には養護の先生や幼稚園の先生がいたが、誤つた情報を元にそういう方々が誤つた情報を流す心配がある。感染には誰でも敏感で、そういうインパクトのある言葉は記憶に残るから、それがドンドン広まっていって、HIVや肝炎全体に対して偏見を生むのではないかと思う。肝炎と言つてもいくつもあることを知らないで、よくそういうことが言えると思つた。エイズより肝炎が怖いとか、どこからそういうことが出てくるのかと思う。指導員の中には●●の看護師もいるが、半分以上は一般の会社勤めだとか、自分も含めて医療とは無関係な人だから、どこかで聞いた情報を元にして話をする。だから、元が誤つてると大変なことになる。先の話をした本人（指導員）に「そういう例はあるのか」と聞いたら、「ない」と言うので、「なぜそんなことを言ったのか」尋ねたが明確な答えはなく、未だに訂正もしていない。ますます広めているのではないかと思うし、どこかで偏見を生むような発言をしているのではないかと思う。自分が通院しているH先生にその話をするとうつるわけじゃないでしょう」「輸血ではうつるけれど、そんなことではうつらない」と言われた。もし言うのであれば、「お互いにどんな病気を持っているか分からないので気をつけましょう」というくらいにしておけばいいのに、なぜあえて特定の病名を出すのかと思う。インフルエンザを持っている人が人工呼吸をしたら相手にも感染する、そういうのは置いておいて、なぜエイズや肝炎なのかと思う。

#### 1.4 男性 50代 国家公務員 C型

- ・昭和●●年に●●省に入省したが、当時2年間の幹部候補生の養成コースがあり、勤務経験2年で受験資格が得られた。自分は3年目に受験して合格し、研修機関に入所して全寮制の生活が始まったが、自分の病気のことを先に入った先輩に少し話したところ非常に嫌な顔をされた。寮の風呂で先輩が先に入っていて、自分の顔を見ると非常に嫌な顔をされた。体を

- 洗って湯船に入ったら、先輩が慌てて飛び出してそのまま風呂場から出て行ってしまった。
- ・研修期間中、ウイルス性肝炎が結構うつりやすい病気だというような、少しデフォルメの効き過ぎた記事が雑誌に出たことがあり、大変だということが話題になった。研修中、細菌を持っていることを作文にする課題があった。
- そこで、ウイルス性肝炎について、こんな偏見があって、自分も肝炎だが通常の社会生活では人にはうつらないものだと作文に書いたが、これがあとで問題になった。担当教官から「本当にウイルス性肝炎か」と聞かれたので「はい」と答えた。「人にうつるのか」と聞かれたので、血液を媒介とする病気だと言おうと思ったが、長くなると思ったので「普通はうつらない」と答えた。しばらくして研修機関の労務担当者が来て同じようなことを聞かれた。なぜ聞かれたかという、「他の研修コースの中で病気を持っている人がいるから研修に行きたくないという人がる」ということだった。自分は誰にも話してないのになぜかと思ったが、自分が病気を持っていることは医師に聞けば分かることだから、自分は病気を持っているがうつりませんと話した。すると、その辺のことを主治医の●医師から直接聞きたいから診察券を貸してくれと言われ、●病院と●医大の診察券を渡した。半月後に診察券を返してもらい、「気にするな」と言われたが、しばらくしてまた呼ばれて「病気がうつらないことは分かっていたが、これを職場に周知する必要があるのでもうまく説明できる医師を知らないか」と言われ、当時T病院のK医師に診てもらっていたので、K医師を紹介した。ところが来たのは別の医師で、説明の最後に「C型肝炎はうつりません」とわざわざ黒板に書いたので「これはオレ絡みだ」（自分のことを職場が問題にしている）とピントきた。
- ・幹部候補生の試験に合格して研修を受けた後、霞が関の本省に配属になった。当時IFN治療を受けていたので十分に働けなかった。言われた通りの仕事をきちんとこなせないの、上司からいじめに近いことを受け、総務の担当者からどういうことかと聞かれたこともある。そのころ、通院しながらIFN治療を受けていたが、医師から病院に来るのは大変だろうから、職場の医務室にイントロンを預けるのでそこで打ってもらうように言われた。医務室にイントロンを持っていったところ、医務室からは、医務室で打つことには責任を持つが、その後のことはうちの領分ではないと言われた。医務室でイントロンを打ってもらっていたが、結局ダメになった（治療効果が上がらなかった？）ので、止めた。その話を総務にしたところ、半月後に本省では無理なので地方に降りてくれと言われ、定期の人事異動で地方局の人と交代することになった。異動の前日、職場で行われた簡単な送別会の際、当時の局長が巡回してきて、自分が水を飲んでいたのでなぜかと聞かれ、課長が「彼は肝臓が悪くて飲めない」と言うと、「どこかで病気をもらってきたのか」と言われた。反論しようと思ったが、翌日移動で、数時間で縁が切れるので我慢した。その時の雰囲気は、局長もさすがにまずいことを言ったという感じだった。立場上、局長は書類にハンコを押しているから、知りませんはないだろうと思う。
- ・その時送別会にいた人は自分の病気のことは皆知っていたが、病気を悪化させたのは本人の責任だという考えの人ばかりだ。勤務時間の管理をする人間に至っては、「お前のせいで余分な仕事一つ増えた」という言い方をした。病気休暇を請求する時も、総務に行って上司の判をもらってくるように言われるので、総務に行くときごく嫌な顔をされた。

### 15 女性 60代 マンション賃貸業 B型

- ・子供を出産してから3年後、今から27年前くらいにポリープがあるのが分かり、T病院がいっぱいだったのでJ病院に手術のため3日間くらい入院したが、入院1日目に差別があった。食事のときに、自分だけ食器が違い、箸も違っていた。その時はしっかりした情報を持っていたので、看護婦長を呼んで「T病院からの申し送りがあるように、食物では感染しないからこういうことをやってくれるな、他の患者さんに対して囲い込むようなことはやめて

- ください」と言った。翌日からは差別はなくなった。
- ・歯科医は同じところに通っているが、抜歯以外の時は言わなくてよいかと思ったが、肝臓癌になった時に言ったが、別に反応は何もなかった。今も治療を受けている。
  - ・中学校ではクラス担任の先生とクラブ活動（剣道部）の顧問の先生といろいろあった。息子は中学に入ったところから見た目はガッチリした太めの体格になってきたが、薬のせいで普通の人よりも疲れやすいのをサボっている、怠けている、甘えていると受け止められ、いじめにあった。息子が周りに対して説明ができなかったので、部活などでも怠け者に見えたのだと思う。そのため学校嫌いになり、先生を信用しなくなった。
  - ・息子が保育園に入った時、ガンマグロブリンの投与を受けていることは保育園にも話したが差別されたことはなかった。小学校では病院に通院するため早退することがあること、薬のせいであまりハードなことは無理かもしれないことを校長先生に話した。担任の先生は理解してくれ、クラスの子供たちも同じ保育園出身の子が多く、保育園の先生の申し送りが子供たちにもできていたので、差別を受けることはなかった。
  - ・肝臓癌の手術で入院するため1か月間家を留守にするので「ちょっと留守にしますから」ということで、B型肝炎から発症して肝臓癌になり手術する旨、近所の2、3人の人に話したところ、周りに回って広まり、「あの人C型みたいよ」などという噂が自分の耳にも入ってきた。やはり話は漏れるのだなと思った。無知な人ほどそういうことを平気で言うのが分かったので、言わなくてよいことは言わない。近所の人にしてみたら、自分が病人らしくなく自由に生きていることに対する反発があるのではないかと思う。

#### 1 6 女性 60代 専業主婦 B型

- ・15年位前、●●の●●病院で、子宮筋腫の手術をした。その後外来に行くとき一番最後。早く行っても順番が最後になる。何も説明はなかった。入院するとき、肝炎だからということで、「個室に入ってください」「洗濯物は家でしてください。ここの洗濯機は使わないでください」と言われた。
- ・●●●●病院で、今回の裁判の書類を書いてもらうのに、医師にお願いに行ったときも、「母子感染ではないのか」と言われる。「まあ書類は書いてあげますけどね」と、B型肝炎の家族歴を認めますと書かれてしまった。これはやめてくださいとも言えないし。
- ・やはり15年前、近くの皮膚科で顔のブツブツをとるピーリングをしませんかと言われて、私も軽い気持ちで「はい」と言ったら、看護師が手袋をしないで取った。次に「検査の結果を聞きに来てください」という時に、肝炎であることが分かったのではないだろうか。それで医師も「あなたは肝炎ではないですか」と言いたいけれど、人に聞こえるので遠まわしにすごく嫌そうな感じがして、もう次からは行きづらい雰囲気があったので病院を変えた。血が出るのに手袋をしていなかったのがすごく気になったが、「手袋しないんですか」とは言えなかった。でも皆のいる前で私は肝炎だからと言えなかった。
- ・歯科医でも肝炎と言えばすごく嫌な顔をされる。15年前、●●のN病院で歯医者にかかったときに、最初にB型肝炎だと言った。先生はB型肝炎のことを知らなかったので、「良いですよ」と言ったが周りの先生の雰囲気が違った。それで、2回目に行ったら、もう私は歯磨き指導だけで治療はなかった。虫歯はあったが、先生が診てくれなかった。
- ・10年くらい前にヘルパーの2級を取ったが、採用で肝炎検査があったから、もう最初から駄目だと思った。資格は肝炎検査がなかったけど、採用は肝炎検査があった。ということは、ひっかかれば採用しないということだと思った。私は皆のいるところで聞きたくなかったし、もうそういうことなのだと思うので、最初から諦めた。
- ・亡くなった母の弟が誰か肝炎の方がいるのかって聞いたことがあった。「うちにはいないよ」と言ったが田舎のことだから、その叔父は母方の叔父だけど、父方の叔父にも言ったのだと

思う。あれからみんな避けるようになったと私は感じる。その時からなんとなく避けられている。やはり田舎のことだから、肝炎と言ったら昔から大変だということを知っている。だから、ただキャリアでも避けられる。会っても避けていると感じる。

### 17 女性 70代 専業主婦 C型

- ・私はそれほど重く受け止めていなかった。それなりに仲間を作ってうまくやっていたけれど、山の仲間に肝炎だと言ってしまった。そうしたらみんな、都合が悪いから行けないとか、山はやめるとか、みんなやめていってしまって、ご主人がB型肝炎だという人が最後に残った。その人は理解があって、その方と最後は行っていたが、見事にいなくなった。もう一人残っていた人と白馬に登ったが、「娘から、肝炎の人と山へ行くなんと猛反対されたけれど、行きたいから仕方なく来た。だけど、実は私気持ち悪くて仕方がないのよ」と、もう一人の、ご主人がB型肝炎の人に言っていた。彼女はうちの主人もとは言えなかったのだろう。1回目のインターフェロンをした後。12、3年前。やはりインターフェロンをするのに言わないわけにはいかなかったから言った。
- ・最初のインターフェロンをする前に職場の人に言ってしまった。職場ではさほど差別的なことはなかった。皆大人だったのだろう。私も遠慮していたし、焼肉パーティーなどは30分くらい遅れて行くようにしていた。すると、鶏肉が二切れくらいあるだけで、みんな冷たかった。皆、あの人は肝炎だから遠慮して遅れてくるのだとわかっている。別に肉はなくてもいいが、冷たいと思った。

### 18 男性 50代 団体職員 B型

- ・歯科医は正しい知識を持っていたと思うが、少し待たされて、座る場所も奥の方へとか、明らかに他の人とは違う扱いをされた。露骨には言われない。歯科医の最初の問診票で申告をしている。最初の頃、B型肝炎ウイルスのキャリアの時はあまり意識もせず、気にもしなかったが、3年前の癌発症以降は自分でも気を付けるようにしていて、歯科医にかかる時も、血液を介してうつる場合があると聞いているので、歯の治療で出血した場合を想定して申告することになっている。
- ・10年前に再婚し、現在の妻にはB型肝炎のキャリアだということを知らせていなかった。自分はキャリアだということはもちろん知っていたが、当時はそれほど意識もしていなかった。それまで発病もしなかった。それで10年前に結婚して、3年前に癌を発症した。妻には色々説明はしたのだが、そういう病気であることが事前にわかっていたら結婚したかどうかかわからないと言われて、ショックだった。今は病気そのものや癌治療に理解があり、結構付き添ってもらった。
- ・病気に対する正しい知識がないが故に、家族、特に妻からそういう思いをしたことがある。

### 19 女性 40代 教師 C型

- ・この治療を始める前に、ご縁があつて付き合い合った方がいたが、これからしんどい1年間が始まるし、その人にも言えなかった。たぶん20代の頃に医師の家庭に拒否されたことと同じことがまた起きるかもしれないし、●●の地方公務員として生きていくにあたって、1人のことをみんなが知っている所だから、面倒くさいと思った。言ったところで、また同じ結果になっても嫌だし、治療の時も避妊はしてくださいとか、治療が終わっても半年間は我慢してくださいという記述があった。トラウマについて、その時は全然関係ないと思ったが、深いところで全てが繋がっている。
- ・歯医者さんへ自分で書類を作って行った。事故の話から、C型肝炎の確定診断を受けたのがいつで、これから治療を始めることまでを全部書いた。それを読んでもらったら、あからさ



まに嫌な顔をされた。医師が読み終わった時の言葉が、「う〜ん」だった。たぶんその「う〜ん」に全てがこもっていると感じた。うつされたらどうしようと思ったのだろう。もっと嫌だったのが、●●と違ってプライベートスペースで治療を受けられないので、周りに他の患者で椅子が全部埋まっているのに、大きい声で言う。医療従事者の人達は理解があると信じたいし信じているが、一般の人達は理解するのは難しい。私の顔を一齐に見た。差別とはこういうことなのだと思う。わかっていないから言えることなのだろうが、だからエデュケーションも大切ということに繋がっていくと思う。だが、お医者様に「う〜ん」と大きい声で言われて、ちょうど真ん中の席だったので両方の患者さんから振り返られた。次回は来ないとは言われてはいないが、そこへは行くのは止めた。わざわざうちの学校の関係者がいないところと思って2つも3つも隣の町まで行って受診してもそうだった。

- ・C型肝炎が分かってから、その人に「もし私がエイズだったらどうする？」という話をしたら「エイズだったら、死ぬのが分かっているから、結婚は出来ないだろう」と言われて結婚をやめた。肝炎だからと言われたわけではなく、たぶん察していたと思う。治る病気だけかどうかという感じで言っていたので、その方も医療関係の方だったのでたぶん分かっていたと思う。ただお互いに怖くて口には出せなかった。今はすごく元気なので、あの時にきちんと言っておくべきだったと思う。それは治療前の話。判明してから治療するまでのドタバタの中での話だった。
- ・(妊娠、出産はその方との付き合いの中でか?) 私も●●歳で相手の方も年齢がいついたので、自分達の話だけでなく子供の話も出ていて、その時は母子感染という話以前に、もしかしたら肝硬変になって肝癌になって死ぬ確率が他の人よりも高いので、母なし子にさせてしまうとまで思ってしまい、子供はいない方がいいと思った。大げさな性格なこともあったと思う。

## 20 男性 70代 無職 C型

- ・内視鏡検査の予約を取った時に、「何時に空いているから、この日のここを取ります。次の血液検査はいつでも出来るので時間は良いです。レントゲンは何時に」という風に言われたので、「変えなくていいのか?」と言ったら「この時間しか空いていないので」と言われた。それで一番最初に指定されたのが内視鏡だったので行ったら「Sさん悪いね、他の検査を先にしてくれないか」と「どうして? 予約を取るときに順番で時間は決められている」と言ったら、「この検査は、先に血液を採ってきてもらわないと、後では出来ないの」とその子が言ったから、そんな話はないと思ったけれど「はい、わかりました」と言って、血液検査の時に検査技師に「自分はこう言われた、内視鏡を見てから血液検査は出来ないのか?」と聞くと「そんなことはない」と。「でも、そう言われたけれど」と言ったら「それは間違いだ」と。それで内視鏡の検査の順番は午前中の最後になった。その人が知っていてわざとやったのか、知らずにやったのかはわからない。おかしいと思ったから検査技師に聞いたらそう言われたので、何か違う事情なのだろう。「先に緊急の検査が入るので、悪いが他の検査を受けて、それが終わった後になります」と言われれば、人がいい方だから「あぁいいよ」と言うのだが、「出来ません」と言われると何かあるのかなと考える。「先にこっちをやらないと出来ません」と言われると、C型肝炎でこうなったのかなと思った。内視鏡は多くて年に1回、どうかすると2年に1回。内視鏡受付の女の子は全然知らない子だった。
- ・歯医者では順番が一番最後にされる。予約する時、予約の一覧表を見てみると、予約表の上の部分空いているにもかかわらず一番最後の時間にされる。C型肝炎と言っているからそうになってしまう。予約表を見て空いていることはわかっているが、「ここはいっぱいなので、この時間に」と言うので、自分が「ここが空いているではないか」と言うのもおかしい話なので黙っている。それは差別だと感じる。抗議はしない。地元だから仕方がない。知識がな

くてそうするので、言っても全然通らない。向こうは悪いと思ってやっていない。うつるから後回しにしていることをあからさまに言わないだけで、治療を拒否されたわけではないから。

- ・裁判にすると言われたことがあった。3人で共同作業をやっていて、そのうちのC型肝炎の方が怪我をして血を流した。C型肝炎であることを他の人には言っていなかったので、肝炎ではない人が血を拭いたり、色々な手当てをしていたら、もう1人が「あの人はもしかしてC型肝炎ではなかったか」と言うのを肝炎でない人が聞いて感情的にこじれた。「うつたらどうしてくれる」という話になり、「うつっていたら裁判する」と言われたと相談を受けた。私は肝炎患者の味方で「裁判でも何でもやってください」と「困ったら何でも言ってください」と言っておいた。そうしたら、肝炎に罹っていない人は遠ざかってしまった。
- ・集落の中で差別はある。ほとんどの人達はそんなことはなかったけれど、最初は感染症だから一部の人は「Sさんの側へ行かない方が良いよ」とか、それは陰であったことも、「うつるのではないか」と面と向かって言う人も何人もいた。その時は、「一般的には90何%うつらないと言われていて。可能性はないがうつると思っていてください」と開き直った。そういう風に言えば少しはわかるので、その後は陰でコソコソ言うようなことはない。対処の仕方次第で治る病気だということも、集落で私がみんなに話してわかっていたので。

## 2 1 女性 60代 — C型

- ・病院の待合室で本を読んで待っていたら、前に座ったおばさん達が、B型肝炎患者のことを話していたのだが、「誰々さんが誰々さん（B型肝炎患者）のところに行って平気でお茶を飲んでいる」「よくそんなことが出来るね」と「私はその家に行っても絶対に何も貰って来ない」と話しているのを聞いて嫌だなと思った。「すみません、そんな事ではうつらない」と言いたいと思った。みんながそう思っていると思うと少し悲しかった。

## 2 2 男性 60代 自営(小売業) C型

- ・経験していないというか、自分から避けてきたのだと思う。自分が差別や偏見に遭うだろうと思う場合は、自分で判断して肝炎であることを言っていなかったと思う。また、聞かれても言わなかった。歯医者に行ったときも、事前の問診票にC型肝炎の項目があったが、〇は付けなかった。

## 2 3 男性 40代 会社員 B型

- ・34歳の頃、B型肝炎に罹患していることが分かり、その半年くらい前から同じ会社の同僚と交際していて、年齢も年齢だったので結婚も考えていたが、結局、自分が入退院を繰り返していたので、段々と疎遠になった。彼女にはB型肝炎のことは全部話して、彼女はそれでも良かったみたいだが、周りの親族にいろいろと言われたみたいだ。彼女はそのことははっきりとは言わなかったが、そんな感じだった。彼女にはワクチンの話もしたが、その説明が足りなかったかもしれない。結局、理解が得られなかったのだと思う。それに対しては、少しショックというか、辛い思いはあった。差別ということは、多少は感じている。彼女はそれから数年後に会社を辞めてしまった。彼女とは、現在もたまにメールなどはしている。これ以外で、偏見や差別を感じたというようなことはない。

## 2 4 男性 40代 会社員 B型・C型

- ・偏見や差別を経験したことも、不愉快な思いをしたこともない。

## 2.5 男性 60代 教師 C型

- ・人間ドックなどへ行って検査をするが、C型肝炎患者だとわかっているのに、大腸検査とか胃カメラ検査で、10年ぐらい前はいつも1番後の方に回された覚えがある。なぜなのか看護師に聞いたら、番号はこうだけれども、C型肝炎のウイルスがあるので、洗うから大丈夫だとは思いますが、後の方にうつる心配があるので一応最後の方に回させてもらいますと言われた。説明してもらおうのと、何も言わないで後回しにされるのとでは違う。
- ・昨日ある会合で隣の部屋の仲間の方が大きな声で、「エイズやC型肝炎のようにうつらないから大丈夫だ」という話があった。どういう意味かよくはわからなかったが、少しでも触るとエイズやC型肝炎はうつると思っている方が話していたのではないかと思う。一般の方は、未だにその程度の知識なのかと思った。
- ・1年に1回職員調書調べがあり、健康状態の項目があって、病気にかかってからは健康ともう1つ、治療中とかそういう項目があって、そこに丸を付けその内容を10年ぐらいは肝炎と書いて、治療中、経過観察中と必ず毎年書いて、管理職を通じて教育委員会に提出していた。あるとき、管理職である教頭から、「あなたは今そういう状態でしっかり働いているし、入院も注射も打っていないので、健康にしておいたらどうか」と言われ、迷って、経過観察中で全くの健康ではないがどうしたらいいのか上司に相談したが、ある年から退職するまでずっと健康の方に丸を付けた。途中で数値が上がってまた入院するようになったら、また要治療にすればいいと思って、とりあえずは働いている間は健康と書いていた。それで良かったのか悪かったのかわからないが、気持ちとして引っかかる。
- ・保険には病気にかかる前から入っていた。今、1年ものや短期間の保険で、死んだときにももらえる額より、病気になったときの医療費を手厚くする保険が多くなっている。そのような保険に私も入りたいと思って、こういう状況で入れますかと聞いても、そういう病気なので結局入れないか、入れるけれども条件が付くので、もらえる額が減るか保険料が上がるかのどちらかだった。新たに医療面で厚い保険に入ろうとしても、今は無理。よほど保険料を払えば別かもしれないが。

## 2.6 女性 60代 専業主婦 C型

- ・平成16年頃肝炎の治療を受けるために、歯を治しておこうと思って歯科医にかかったとき、行きつけの歯科医で、家族はその歯科医にはかかっておらず、私だけがかかっていた。歯科医から最後にして欲しいと言われた。初診だから問診票にC型肝炎の陽性反応、あるいはC型肝炎に罹患している趣旨の記載をした。どの程度その歯科医が消毒をやっていたのかわからないが、他の人に感染させないためには仕方がないと思った。
- ・そこで診療時間の最後に来るように言われた。その理由の説明はあったか覚えていないが、自分でもやはり他の方に感染させないために、1番最後に行っているのだと思った。あえて私も歯科医には聞かなかったが、こういう理由で治療するのは最後になりますと説明を受けていたとしたら仕方がないと思う。他の患者さんに感染させてはいけないから、納得できる。納得できるけれども、また遅い時間に出直すのは大変という思いもある。途中から特に言われなくなり、最後ではない時間に予約できた。職場の近くだったのだが、今は家の近くの歯科医に変わった。
- ・今通っている歯科医では、一応、治ったけれどもこういう既往があると問診に書いたが、特に遅い時間ということはない。幾ら著効になったといっても、陽性反応がある以上はやはりうつす心配があると思うが、失礼だが歯科医はどの程度C型肝炎を理解しているのかという感じはする。
- ・保険加入の関係は、年が年なので、あまり自覚はない。感染がわかる前から入っている生命保険があるので、それだけ。あと2年ぐらいあとなのだが、その保険は65歳までなので、

自分としてはもっと長く、その時点で切り替えたいと思うが、どうなるのかはわからない。入れないとか料金が高いということは、肝炎患者の方や保険会社の人から話は特にはない。肝炎患者だと保険加入を断られる、入りにくい、入れない、保険料が高くなることは、自分の思い込みかもしれないが、そうなのだろうと思ってしまう。

### 27 女性 70代 専業主婦 C型

- ・夫の母が、私を健康診断も何もいらない郵便局の簡易保険に入れてくれていたが、民間の生命保険の加入を断られた。初めて加入しようとした時に、娘の友達之母であった外交員に、肝炎の話をしたときに、顔色を変えて用紙を引っ込められた。体の調子が悪いことは知っていたと思うが、肝臓とかC型肝炎のことまでは知らなかったと思う。そのときは加入できなかった。外交員が顔色を変えたということは、今でも覚えているが、それこそ不治の病ぐらいに思っていたのではなかったのか。それと、保険の外交の方としては、早く亡くなられては困ることがあったのではないか。もちろんうつることもあったと思う。私は保険には入っていない。このときが初めて。主人の母が、私を郵便局の簡易保険に入れてくれていたが、健康診断も何もいらないもので、積み立てみたいなものだった。
- ・友達の外交員に断られてからずいぶん後だが、私が●●歳のときに、火災保険か何か入っているお付き合いのある保険の方に、生命保険に何も入っていないと、お葬式を出すにも困るから何かいい手立てはないかと相談したら、3年間C型肝炎で亡くならなければ、生命保険だけなら入れると言われた。少しインキキミたいらしいのだが、3年間は命が持つかと聞かれて、3年間は大丈夫だと思うということで入った。入院保険や特約、入院保障そういうものは付かなかった。死亡時に幾らという保険には入れた。今●●歳で、あれから12年経っているの、死亡してもらえと思う。

### 28 男性 40代 会社員 B型

- ・5、6年前よりも少し前、保険の外交員から、保険に入るように勧められ、その際に肝炎であることを告知したら保険には入れないと言われた。その後も同様の経験をし、また、高い金額の保険であれば入れると言われた。

### 29 女性 60代 会社員 C型

- ・歯医者などで、自分の被害妄想かもしれないが、陰口を言われているように聞こえることがある。
- ・会社の健康診断で、胃カメラの検査の際、C型肝炎と書いたら、相当期間放置された。それ以降、人間ドックでは胃カメラは選ばないようにしている。
- ・保険の加入を全て断られた。

### 30 男性 50代 会社員 C型

- ・会社は休業補償だったが、その間、社長から退職して失業手当をもらえと言われた。
- ・罹患を会社に言った後、会社から健康診断を受けないように言われた。
- ・生命保険の切り替えが出来なかった。

### 31 男性 60代 会社員 C型

- ・僕はタバコを吸うが、入院中喫煙室へ行くと、それまで座っていた患者さんがいなくなる。C型肝炎の患者は他にいなかった。大部屋で、看護師さんが来て「インターフェロン何分後に打つから座薬入れてください」と言うので、周りの患者さんに丸聞こえ。1人タバコを吸う患者さんで、最初は僕が行くといなくなっていたけど、親しくなって途中から一緒に吸う